

✧ 干布小学校だより

結果報告号 令和7年9月

天童市立干布小学校

校長 熊谷 雅志

全国学力・学習状況調査結果より

毎年4月に、6年生を対象に実施される「全国学力・学習状況調査」が今年度も実施されました。今年度は、国語、算数・数学、理科の3教科と学習状況の調査が行われ、その結果について「全国、山形県」の調査結果等が公表されたことを受けて、本校でも分析を行い、授業改善の取り組みを進めています。

今年度の結果から、国語では「相手の話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」、算数では「場面の数量に着目し、数量の関係を簡潔に一般的に表現し、式の意味を読み取る力、伴って変わる2つの数量に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力」、理科では「雨水の行方と地面の様子に関わる考察力、電流が作る磁力に関する理解力、植物の発芽・成長・結実につながる観察力」が身につけていることがわかりました。また、ICTを学習に活用する経験や意識も高いことが確認されました。

今後は、課題となる点の改善に向けて指導計画に適切に反映させるとともに、学習指導等でも計画的に取り組み、「学習指導の充実、実践力の育成」に努めていきたいと考えています。

【本校の学力・学習状況調査の結果について】

◇国語・算数・理科ともに、全国・県の平均を上回っています。



(1) 学力調査の各教科の分析と今後の授業改善点

◎ 大変良かった内容 ○ 良かった内容 △ 課題となる内容

①国語

- ◎ 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。
- ◎ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- 漢字を文の中で正しく使うことができる。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
- △ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。
- △ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- △ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけることができる。



②算数

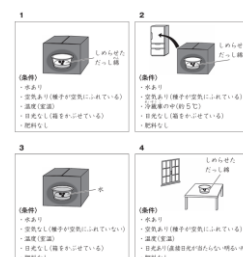
- ◎ 角の大きさについて理解している。異分母の分数の計算をすることができる。
- ◎ 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えることができる。
- ◎ 数直線上で、目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。
- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算することができる。

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる。
- △ 目的に応じて適切なグラフを選択したり、問題文の内容を判断して求める数値や求め方を考えたりして、その理由や意味を言葉や式を用いて記述できる。
- △ 図形の性質や意味について理解している。

・ 長方形の面積＝たて×横 ＝横×たて
・ 正方形の面積＝1辺×1辺
・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
・ 台形の面積＝(上底＋下底)×高さ÷2
・ ひし形の面積＝対角線×対角線÷2

③理科

- ◎ 電流がつくる磁力について、電磁石の強さの変化について理解している。
- ◎ 身近な植物の花のつくりや受粉についての知識が身についている。
- 土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができる。
- 氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解している。
- △ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを理解している。
- △ 野菜の種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見出し、表現することができる。



(2) 総評

各教科の結果には、普段の授業で身に付け活用されている学びが成果として表れました。様々な学習において、お互いに意見を出し合い、相手の話の内容を話し手の考えをくみ取り、自分の考えをまとめ、自分の考えが伝わるような場を設定し、取り組んできたことが結果に表れていました。また、グループでの意見交換や試行錯誤、協働活動により、考察力・理解力・観察力が身につけており、仲間との関わりの中でのプラス作用がわかりました。その際、ICTを学習に活用する経験や意識も高いことが確認されました。そのような姿は、学校行事や縦割り班活動などに活かされており、子どもたちの学力向上とともに、非認知能力の向上も図っていきたいと考えています。全国学力調査は、基礎基本の知識の理解をもとに、発展的で活用力を問う内容が多くあります。文章と図表・グラフ・資料などに関連させたり必要な情報を見つけたりと、根拠を明確にして表現する力が必要になります。また、教科特有の用語を活用することも必要になります。

今年度の調査結果をもとに、分析・検証を行い、授業改善に向けた取り組みを進めてまいります。その際、各学年・各教科など学校の教育活動全体を見渡した視点で、課題解決や改善に取り組むことができるよう努めます。

(3) 学習状況調査の結果より

全国と県平均を上回っていて顕著なものは、以下の質問内容でした。

- ◎ 自分にはよいところがあると思う。
- ◎ 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ◎ 友達関係に満足している。
- ◎ 5年生までに受けた授業で、タブレットなどのICT機器を活用して、情報収集したり、友達と考えを共有・比較したり、協力しながら学習を進めることができる。
- ◎ タブレットで画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる。



これらの結果を受け、一人ひとりの豊かな心を育む取り組みとなる、道徳教育や学校行事・縦割り班活動、体験活動を充実させ、読書活動や発表・表現活動を大切にしていきます。また、学習活動を支える学級での人間関係・学級の雰囲気づくりを大切にしていきます。

今後も、一人ひとりの発達段階や状況に応じて家庭との連携を図りながら取り組んでまいりますので、各ご家庭や地域の方々のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。